

茨高は「きっかけ」がとて多い学校

N. H.

筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 進学

ひたちなか市立 田彦中学校 卒業

私は国際教養コースに所属していたため、高校1年の時から英語で行われる授業をはじめ、英語でのセッションやプレゼン、毎日のオンライン英会話などを通して、英語のスキルや感覚を身に着けることができました。高校2年の時には単位を落とさずに半年間留学を経験することができます。私たちの代はコロナ禍の影響もあり、行き先がニュージーランドからカナダへと変更になりましたが、カナダでの生活は日本のものとは全く別物で、毎日が新しい発見ばかりで、英語の勉強がはかどるだけでは無く、カナダのホームステイでは自分のことは自分でやるというスタイルが基本なので、一人暮らしをするための家事能力や自立心、責任感も同時に養うことができました。そして、夢のような半年間の留学が終わるころにはすでに私たちは日本で受験生として受験勉強を開始しなければいけない時期に入っていました。私は英語が好きだし得意でしたが、他の教科に関してはテスト前に頑張って勉強して、テストで点数を取ったらそのあとは忘れてしまうということが多かったので、受験に対する不安がとても大きかったです。また、進学したい大学や学部、将来進みたい方向が全く定まっていなかったため、受験勉強もなかなか捗らず、受験そのものを諦めてしまいそうになった時もありました。しかし、茨高はきっかけがとて多い学校で、受験や職業などに関する講話が定期的に行われていますし、先生方が親身になって相談に乗ってくくださったおかげで、だんだんに行きたい学部が定まり、最終的には筑波大学の国際総合学類を学校型推薦という形で受験することになりました。国際教養は授業の編成が一般コースのクラスとは異なるため、私立文系を一般受験するか、推薦で受験する道がメインではありますが、それでも生徒のやる気さえあれば、国公立や海外に進学することも可能なのところがとても魅力的だと受験を通して改めて感じました。

3年間 JRC 部に所属していましたが、留学の半年間や前半のコロナ禍の空白があり、思うように活動することができませんでした。ですが、学校内での小さなボランティアや近くの施設での活動はとても楽しく、JRC 部に入って良かったと思っています。

私は茨高の国際教養コースのプログラムや理念に魅力を感じ、進学先として選びました。その分、高校生活に対する期待がとても大きかったのですが、実際の高校生活は、その期待を大きく超えるほど充実していました。国際教養コースは少人数編成で、3年間クラスのメンバーが変わりません。そのため、おそらく家族よりも長い時間を過ごし、クラスマッチや文化祭、留学などの楽しいイベントを経験したり、時にはぶつかり合ったりと、濃い毎日を過ごすことができました。また、受験や卒業が近くなっても、一人一人がそれぞれの夢や目標に向かって切磋琢磨し、お互いに刺激を与え合い、支え合う環境は、私にとってこの上なくありがたいものでした。

大学では、文化や価値観の違いなどから起こる世界規模での貧困や紛争、また教育格差問題についての研究をしたいと考えています。入学後は学びに貪欲に、周りへの感謝の姿勢を忘れずに毎日の時間を大切に、高校生活とはまた違う、充実した生活を送りたいです